

日本の民家 一九五五年

二川幸夫・建築写真の原点

MINKA

Japanese Traditional Houses:

Yukio Futagawa and the Origins of His Architectural Photography, 1955

青森県立美術館 

2013年12月14日(土)～2014年3月30日(日) AOMORI MUSEUM OF ART

休館日：2013年12月29日～31日、2014年1月14日、27日、2月3日～7日、24日、3月10日 開館時間：9:30～17:00 (入館は16:30まで)

お問い合わせ：日本の民家展実行委員会事務局(青森県立美術館内) 〒038-0021 青森市安田字近野185

Tel:017-783-3000 Fax:017-783-5244 E-mail:bijutsukan@pref.aomori.lg.jp URL:www.aomori-museum.jp

主催：日本の民家展実行委員会(青森県立美術館、青森県写真連盟、一般社団法人青森県建築士会女性委員会)

特別協力：A.D.A.EDITA Tokyo Co.,Ltd.、GA photographers 技術協力：エプソン販売株式会社

協力：パナソニック汐留ミュージアム、青い森鉄道株式会社 後援：東奥日報社、デーリー東北新聞社、陸奥新報社、青森県教育委員会

観覧料：一般700(600)円 / 高校・大学生500(420)円 / 小・中学生200(160)円

※()内は20名以上の団体料金。※心身に障がいのある方と付添者1名は無料。

※小・中・特別支援学校の児童生徒及び引率者が、学校教育活動として観覧する場合は、常設展に準じて無料。

写真：二川幸夫

「石川県輪島市町野町、時国宏家の大黒柱」1950年代
アートディレクション：細谷巖 会場構成：藤本壮介

その民家を、日本中を歩いて記録した若者がいた。

人間生活と共に長い歴史を生きつづけてきた民家のガンバリと力強さ、私は民家の中に、民衆の働きと、知恵の蓄積を発見し、この現在に生きつづけている素晴らしい過去の遺産を、自分の手で記録しようと思った。

二川幸夫「写真について」『日本の民家 大和・河内』（美術出版社、1957年発行）より抜粋

1957年から59年にかけて発行された『日本の民家』全10巻は、日本が国際的な経済発展に向けて飛躍しようとしていた頃に、あえて民家の最期の美しさにカメラを向けて、世間を瞠目させました。大地とつながる民家の力強さ、そしてそこに蓄積された民衆の働きと知恵をとらえた280点のモノクロ写真は、二川幸夫（1932-2013）が20歳前後に撮影したものです。文章は当時新鋭の建築史家、伊藤ていじ（1922-2010）が著しました。

二川幸夫は確かな評価眼を通して見たものを建築写真として定着し、自ら主宰する出版社を中心に発表してきました。優れた建築を追って世界中を駆け巡り、比類のない作品を精力的に残してきた彼の建築の旅の原点は、この『日本の民家』にあります。

本展は1955年にさかのぼって、若き日の二川幸夫がとらえた貴重な民家の姿を、選び抜いた約70点の作品を通してご覧いただきます。

*詳細は、当館ホームページ等をご参照ください。



二川幸夫「山形県蔵王村、民家の妻破風」1950年代



二川幸夫「愛媛県南宇和郡西海町、外泊集落」1950年代

関連企画

青木淳 × 藤本壮介 新春建築放談

日時：1月13日(月・祝)14:00～15:30

会場：青森県立美術館シアター

交通案内

- JR新青森駅から車で10分
- 青森駅から車で20分
- 青森空港から車で20分
- 東北縦貫自動車道青森I.C.から車で5分
[八戸方面から]青森自動車道青森中央I.C.から車で10分
- 青森市営バス青森駅前6番バス停から
運転免許センター行き「県立美術館前」下車(所要時間約20分)
- ルートバスねぶたん号(左回り)新青森駅南口バス停から
「県立美術館前」下車(所要時間約10分)

